

令和2年度福島市社会福祉審議会

第2回児童福祉専門分科会 議事録

- 1 日 時 令和2年11月18日(水) 14:00~15:00
- 2 場 所 福島市保健福祉センター 5階 大会議室
- 3 出席者 荒井 麻由美 委員、氏家 京子 委員、渡辺 真紀 委員、栗花澄子 委員、
神戸 信行 委員、後藤 あや 委員、紺野 淳 委員、安齋 節子 委員、
田辺 稔 委員、細谷 實 委員、大和田 誠 委員、菊田 由香 委員
(計12名)

4 内 容 (1) 開 会

(2) 報告事項

①放課後児童クラブの公募結果について

資料1に基づき、事務局より説明

②「(仮称)福島市子どものえがお条例」素案について

資料2に基づき、事務局より説明

【質疑応答】

- 委員 「子どもの役割」と第3章の「子どものえがおのために」という書き出しが
すごく良い。ただし、どうしても難しい表現になってしまう部分があるので、
条例の子ども向けバージョンなど読みやすいものも検討してほしい。
それと、第2章の育ち学ぶ施設だけ「役割」という文言が抜けている。
- 事務局 子どもにも理解できるような簡易版は、作成する方向で考えている。また、
ご指摘のあった点は修正する。
- 委員 かつて、市で子どもの権利条例をつくる動きがあったと思うが、市議会では
採択となっていたのか。
- 事務局 最終的には、提案に至らなかった。
- 委員 条例制定にあたっては、市議会との連携が必要だと思うが、そのあたりはど
う考えているか。
- 事務局 平成28年に児童福祉法が改正となり、子どもの権利条約の理念が盛り込ま
れた。本条例は、それに基づく子どもの権利を盛り込み、施策を全面に出した
ものを考えている。

③福島市青少年プランについて

資料3に基づき、事務局より説明

【質疑応答】

- 委員 インターネットの情報の領域について、通信機器とゲームが分離できない。ゲームの問題は、検討段階で話しは出たのか。
- 事務局 アンケートの中で、どのような通信機器を使っているかという設問があり、「ゲームをするため」と回答した数値（割合）を掴んでいる。
- 委員 日本の子どもたちの近眼が進んでいる。90%が近眼になっているという情報もある。最近の調査だと、インターネットとゲームの普及率に比例して、近眼が増えている。心と体の問題にもフィードバックしてくるような気がしている。
- 委員 「リテラシー」という言葉について、本来の単語の意味とは違う意味で使われている。理解し難い部分もあり、パブリック・コメントのためにも、考えていた方がよい。
- 「男女共同参画」＝「ジェンダーフリー」と取り違えないでほしい。本来の男女共同参画というのはそうではない。十分気を付けて編集してほしい。
- 委員 子ども・子育て新ステージプランにもインターネットの安全利用の記載があったので、改訂の際に、ゲームの問題をどう入れ込んでいくか考えていた方がよい。
- 「インターネット利用によるトラブルを経験していない割合」について、令和7年の目標値が現状値と同数値となっているが、おそらく全国値と思われるので、PDCA サイクルの中で、途中、本県の現状を踏まえた上での改正が必要になる。
- ◎会長 ここだけ、なぜ、利用していない人の割合なのか。
- 事務局 割合を上昇させることで、健全な状況に近づくためであり、肯定的に捉えるものである。記載している参考値も全国の数値ではなく、市内の小中高生の数値である。今後においては、毎年度、意識調査を実施していく予定である。

(3) その他

①認可保育施設改築について

資料4に基づき、事務局より説明

②「こどもと女性をまもる、オレンジ・パープルリボンキャンペーン」について

資料5に基づき、事務局より説明

(4) 閉会